

利用者アンケート調査結果（抜粋）

1. 実施調査の概要

項目	概要
調査の目的	東北地方の居住者を対象として、公共交通に対する「認知度」、「愛着度」、「満足度」、「重要度」を把握し、東北地方の公共交通の現況分析及び今後の公共交通の活性化・再生に向けた施策の検討を行うための基礎資料を得ることを目的として実施。
調査対象	東北6県全域を対象とし、公共交通利用者に限らず、16歳以上の居住者全体を対象として実施。なお、調査データの偏りを防ぐために、実際の人口比率に合わせて、地域別・性別・年齢階層別等の属性別に回答可能者数を設定した。
調査方法	幅広い層からの回答を得るために、インターネットモニターを活用したweb調査とした。合計1,700サンプルの回収を得た。
調査時期	平成21年11月20日（金）～平成21年12月4日（金）

2. 属性

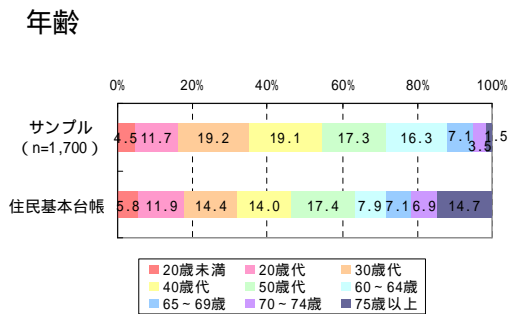
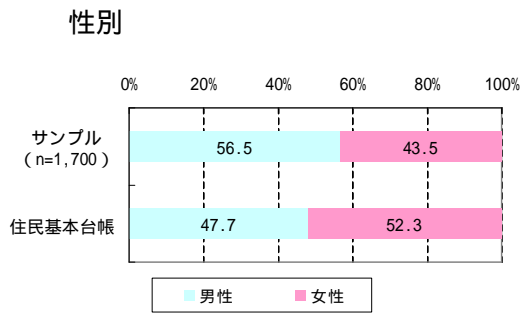
(1) 総括

県	都市規模	男性									
		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	合計
青森県	10万人以上	4	7	15	10	10	20	7	3	1	77
	10万人未満	4	5	14	13	10	11	7	2	0	66
岩手県	10万人以上	2	3	12	8	11	9	8	1	2	56
	10万人未満	8	9	12	15	12	15	9	4	0	84
宮城県	10万人以上	5	19	21	19	28	20	15	4	2	133
	10万人未満	7	8	9	23	24	15	12	5	4	107
秋田県	10万人以上	4	5	7	6	9	12	5	3	0	51
	10万人未満	3	12	21	21	14	8	4	5	3	91
山形県	10万人以上	1	4	4	12	10	14	4	1	1	51
	10万人未満	2	12	18	11	18	18	9	4	0	92
福島県	10万人以上	3	9	8	14	12	16	5	9	1	77
	10万人未満	2	8	10	16	9	20	6	4	1	76
合計		45	101	151	168	167	178	91	45	15	961

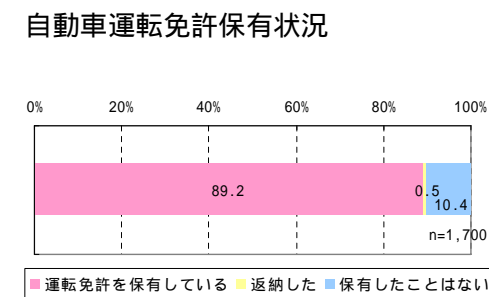
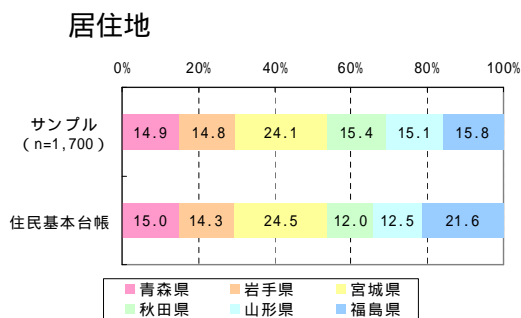
県	都市規模	女性									
		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	合計
青森県	10万人以上	1	7	16	14	8	9	2	2	0	59
	10万人未満	5	8	15	13	5	4	1	1	0	52
岩手県	10万人以上	0	2	11	11	12	10	0	0	1	47
	10万人未満	3	14	13	14	12	6	2	0	0	64
宮城県	10万人以上	2	10	23	22	14	19	9	1	2	102
	10万人未満	3	7	15	18	8	9	4	1	2	67
秋田県	10万人以上	2	3	8	9	9	8	1	2	0	42
	10万人未満	3	15	16	22	15	6	0	0	0	77
山形県	10万人以上	1	8	10	5	7	7	2	0	1	41
	10万人未満	4	4	23	12	18	6	5	0	0	72
福島県	10万人以上	3	10	15	9	9	9	3	5	1	64
	10万人未満	4	10	10	7	10	6	0	2	3	52
合計		31	98	175	156	127	99	29	14	10	739

県	都市規模	合計	県合計
青森県	10万人以上	136	254
	10万人未満	118	
岩手県	10万人以上	103	251
	10万人未満	148	
宮城県	10万人以上	235	409
	10万人未満	174	
秋田県	10万人以上	93	261
	10万人未満	168	
山形県	10万人以上	92	256
	10万人未満	164	
福島県	10万人以上	141	269
	10万人未満	128	
合計		1,700	1,700

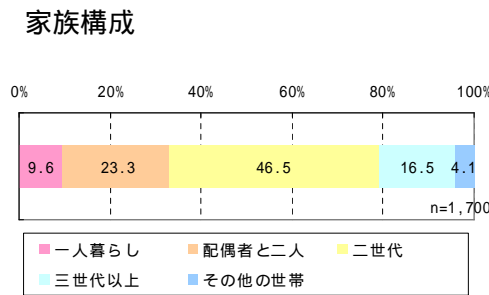
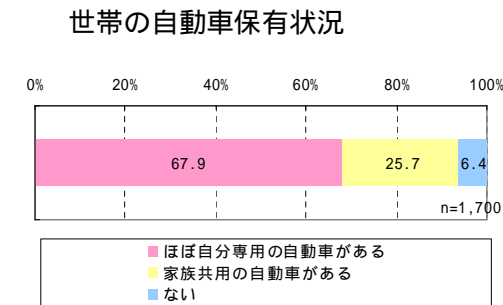
(2) 詳細属性



(資料) 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数 (平成 21 年 3 月 31 日現在) 総務省



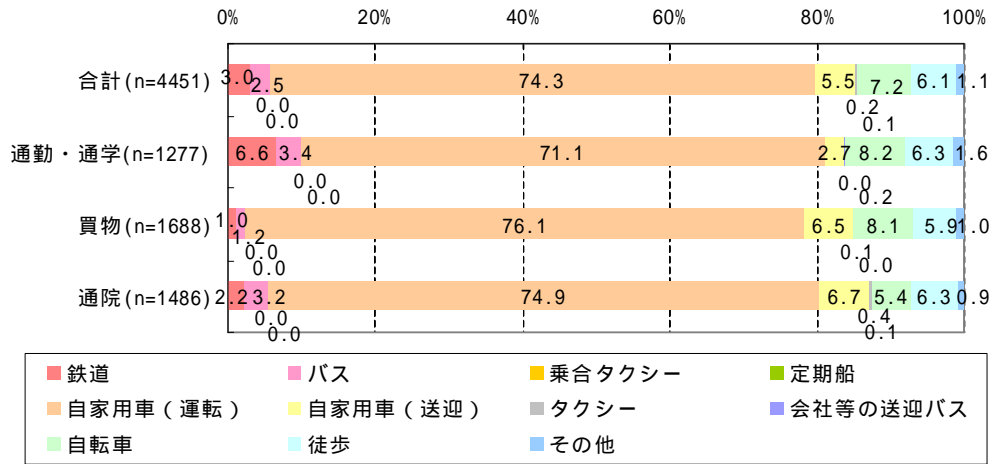
(資料) 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数 (平成 21 年 3 月 31 日現在) 総務省



(3) 移動実態

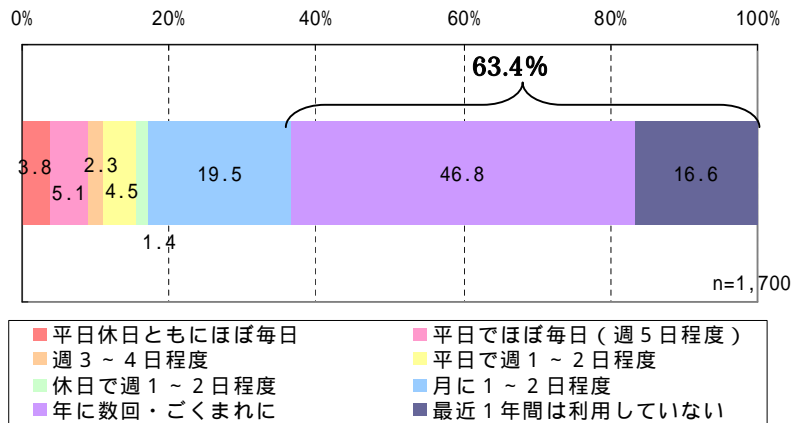
主に利用する交通手段

7割以上が、移動には主に自家用車（運転）を利用。



公共交通の利用状況

「最近1年間は利用していない」「年数回・ごくまれに」をあわせて、日常的に公共交通利用を利用する習慣がないと考えられる回答者が6割以上。

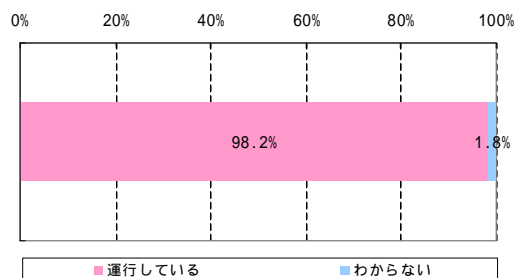


3. 調査結果

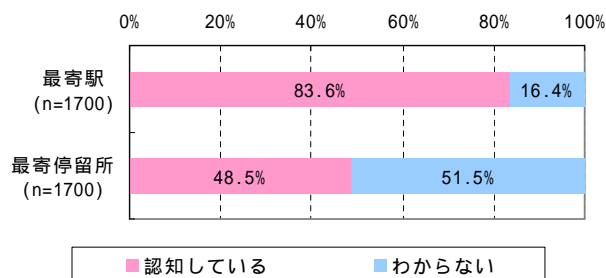
(1) 認知度

居住地域を運行している公共交通機関については、ほぼ全ての人が認知。
 最寄停留所については、半数以上が認知せず。
 7割以上が公共交通についての困難な状況を認知。

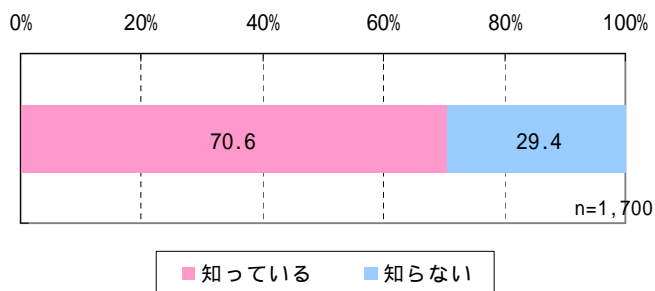
公共交通全体の運行認知状況



最寄駅、最寄停留所の認知状況



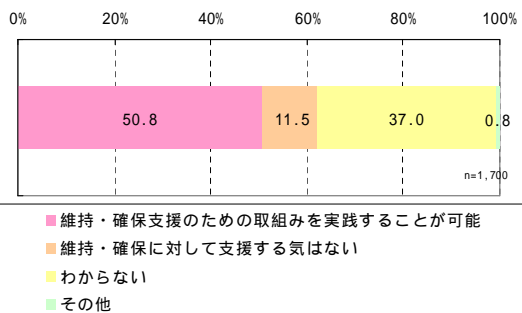
公共交通が困難な状況にあることの認知状況



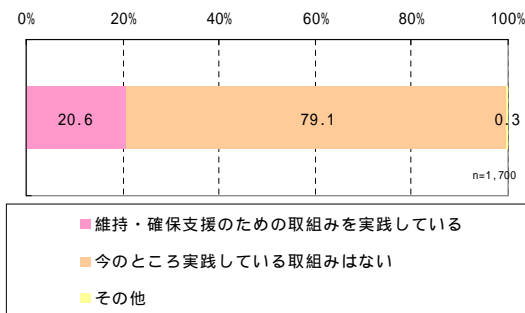
(2) 愛着度

半数以上が、公共交通の維持・確保のために何らかの取組を行う意向がある。
 実際に公共交通の維持・確保のための取組を実践しているのは2割程度。
 公共交通の維持確保のための取組を実践していない理由としては、「身近にそのような機会がない」と「公共交通の維持確保は事業者や行政が責任を持つべき」が拮抗。
 公共交通の困難状況の認知と何らかの取組を行う意向には相関関係がある。

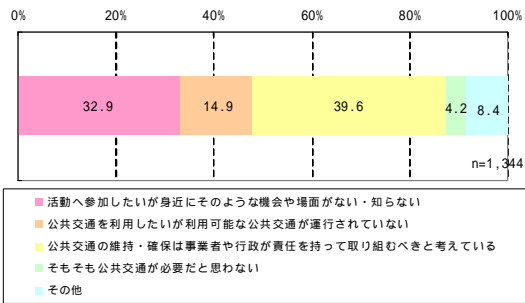
公共交通の維持確保のための取組実践意向



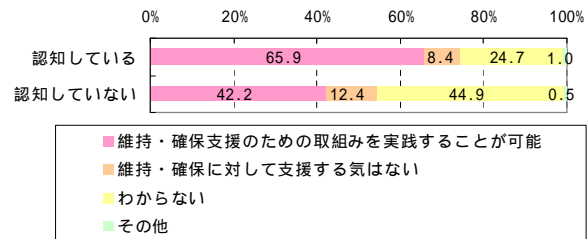
公共交通の維持確保のための取組実践状況



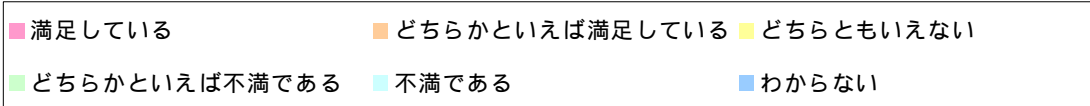
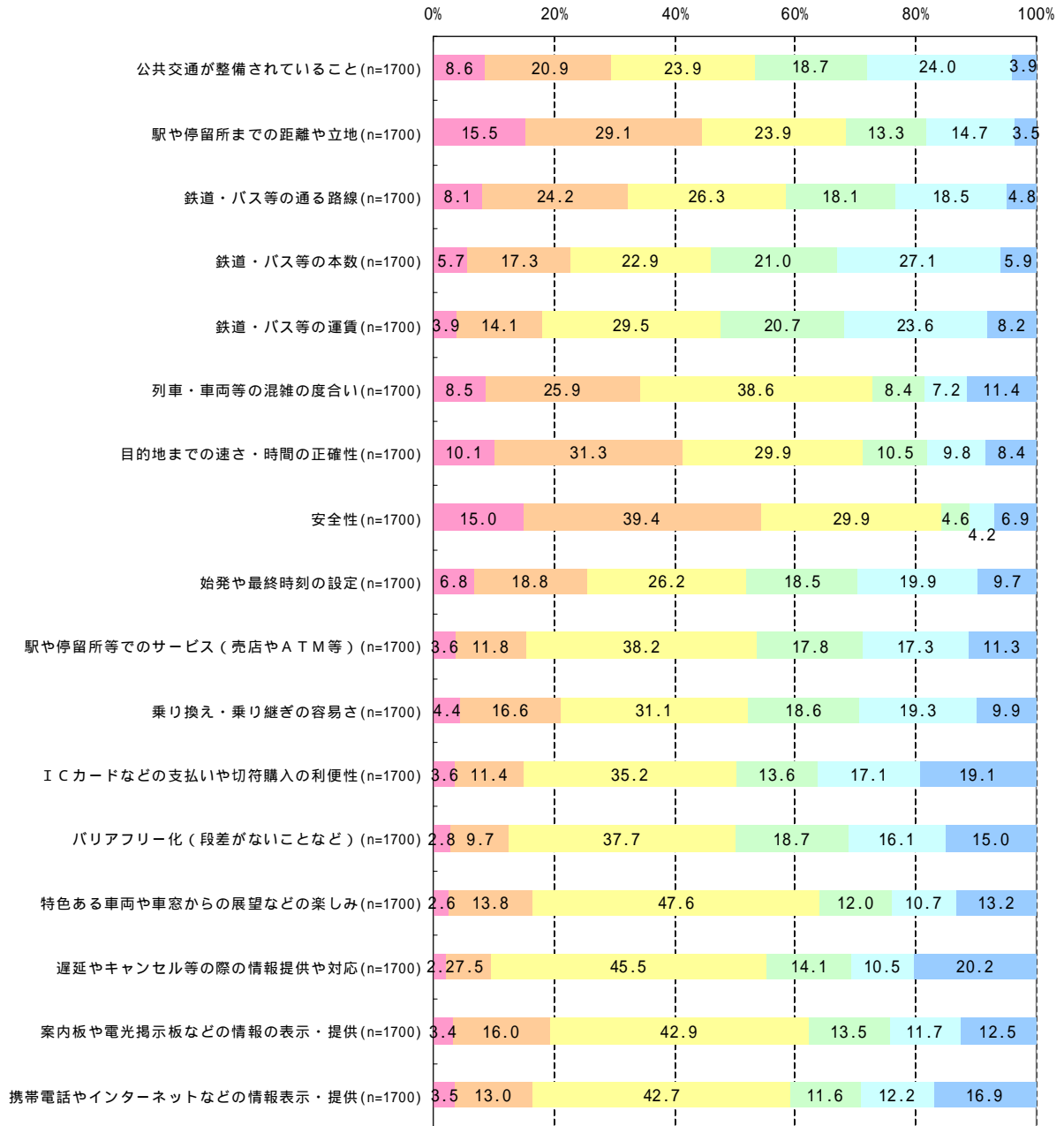
公共交通の維持確保のための取組みを 実践していない理由



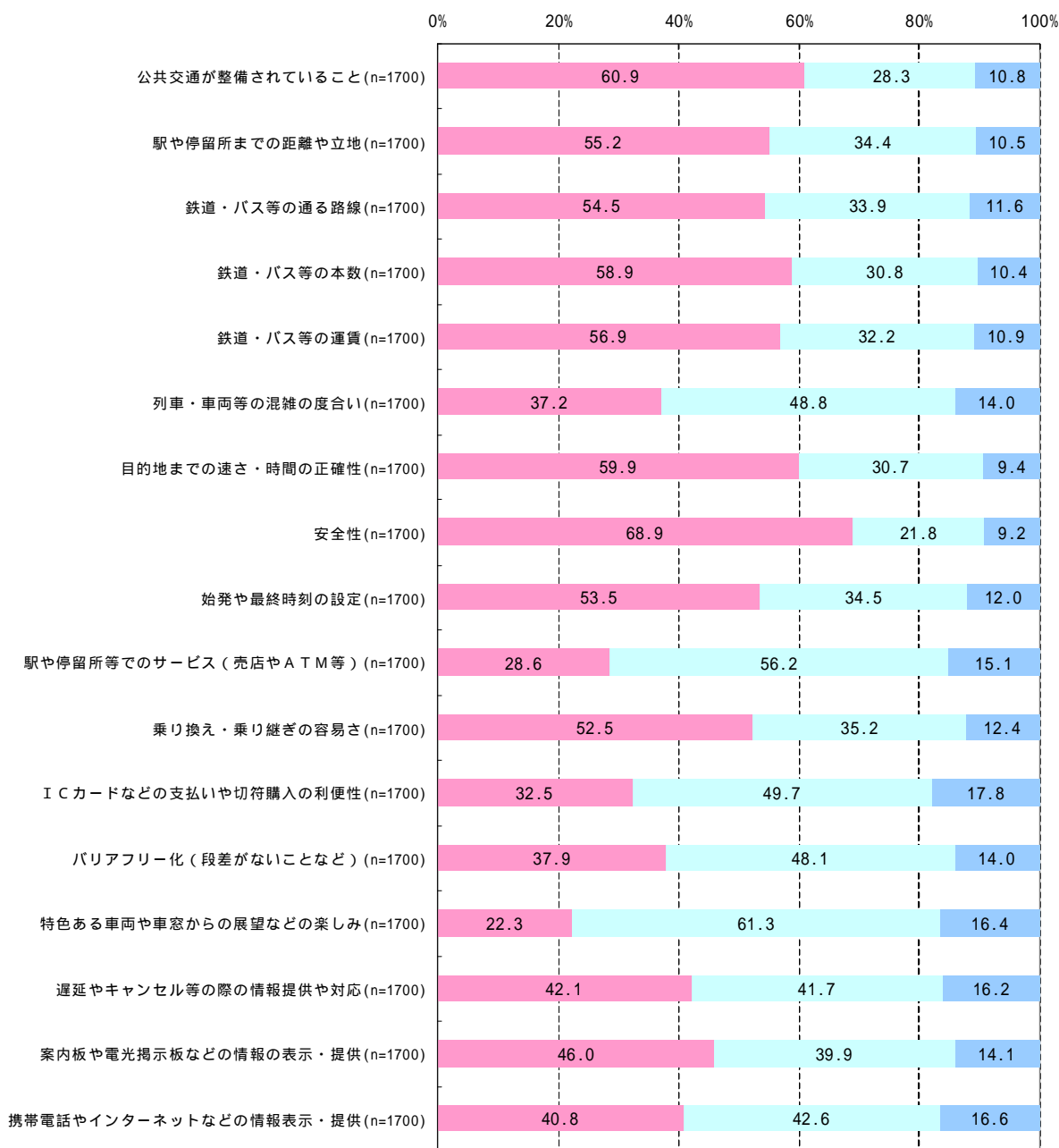
公共交通困難状況の認知と実践意向との関係



(3) 満足度・重要度
満足度



重要度



■ 重要度が高い

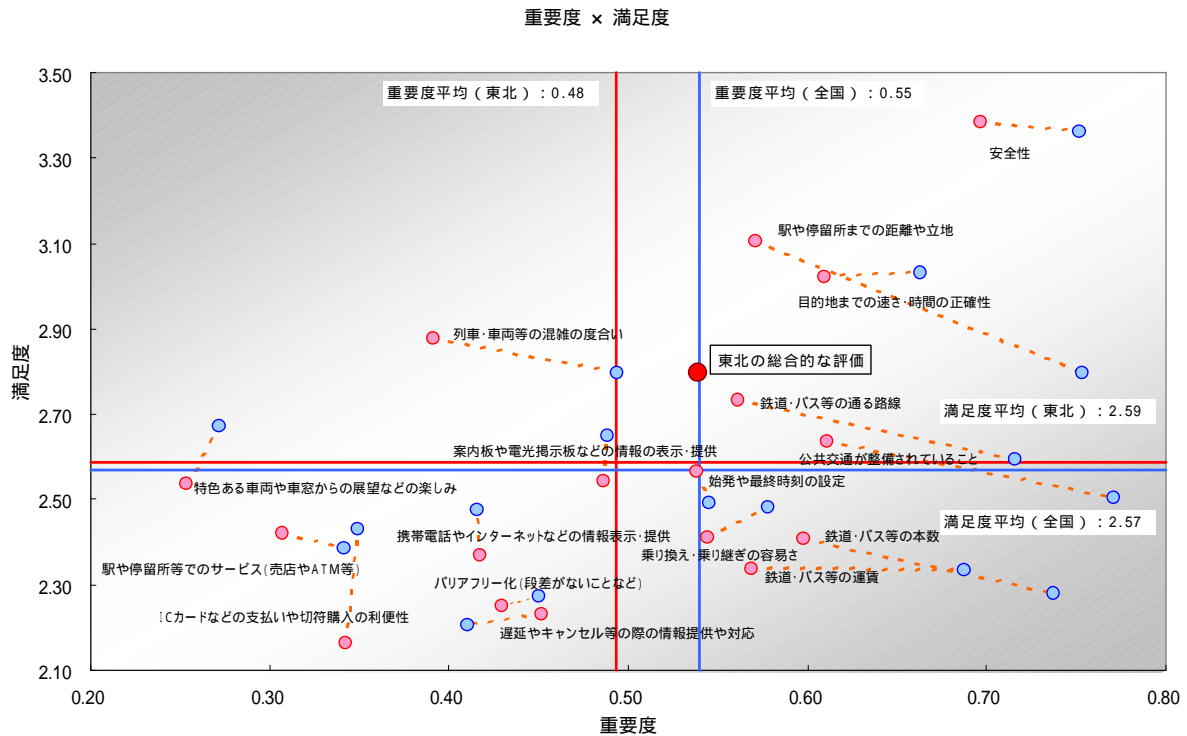
■ 重要度が低い・自分には関係ない

■ わからない

満足度と重要度の相関関係

全国と比べ、ほとんどの項目で低い重要度。

『鉄道・バス等の本数』、『鉄道・バス等の運賃』、『乗り換え・乗り継ぎの容易さ』、『始発や最終時刻の設定』などは、満足度が低く重要度が高い。



(資料) 全国データは「平成 20 年度国土交通白書」より作成

赤い点が東北の満足度・重要度スコアを示し、青い点が全国の満足度・重要度スコアを示す

(注) 満足度は、「満足」：5、「どちらかと言えば満足」：4、「どちらともいえない」：3、「どちらかと言えば不満」：2
「不満」：1として満足度スコアを算出。

重要度は、「重要」：1、「重要度が低い・自分には関係ない」：0として重要度スコアを算出。